



大明小学校

校長室から

令和元年10月4日

No. 31

文責 校長 飯久保一男

子どもたちの体験・経験

私は大明地区の隣の小笠原で生まれ育ち、現在も住んでいます。私の妻は甲府で育ち、嫁に来ました。家の中に虫が入ってくると、妻はそれはもう大騒ぎです。私がつかんで外に出しますと、そのつかんだ手を洗えとまた大騒ぎです。妻が虫を嫌いであるということもありますが、小笠原と甲府とで虫一匹に対してこれだけ違うのです。



最近、家に入ってきた「ウマオイ」
俗称「すいっちゃん」

さらに今の子どもたちとは、自然体験や生活体験が大きく違います。生まれたときにカラーテレビや乗用車、エアコンなどが当然のように身の回りであった世代（もしかすると保護者の皆さんもそうでしょうか？）です。子どもたちは、テレビやパソコンなどを通して、たくさんのことを見ていますから、もっている知識には幅広いものがあります。子どもたちに話をしたときに「それ知ってる。テレビで見たことがある。」という声が出ることもたびたびあります。しかし、実際に体験しているかということ…？

極論するなら、「映像を通して、南極やエベレストの地面は見ている。しかし、子ども部屋の前の土をさわったことがない。」「テレビで見たので、トンボやセミの生態は説明できるくらいに分かっている。しかし、実際にトンボを捕まえたこともないし、セミをさわったこともない。」ということにもなりかねません。

文部科学省が「生きる力」を打ち出したときに、子どもたちの自然体験や生活体験についての次の資料を出しました。古いデータですが、以下のようになっていました。

◇自然体験について（1回も経験したことがないと回答した子の割合）

◇生活体験について（1回も経験したことがないと回答した子の割合）

①高さ1,000m以上の山に歩いて登ったこと	68.0%	①赤ちゃんのオムツを替えたり寝かしつけたりしたこと	69.4%
②野外でテントに寝たこと	60.9%	②切れた電球をとりかえたこと	46.2%
③木の実、野草、キノコなどを取って食べたこと	48.6%	③おとしよりの世話をしたこと	45.2%
④日の出や日の入りを見たこと	43.0%	④カマヤナタでものを切ったり割ったりしたこと	41.9%
⑤わき水を飲んだこと	42.9%	⑤生まれたばかりの赤ちゃんを見たこと	41.9%
⑥親戚や友だちの家などに一人で泊まったこと	39.5%	⑥近所の幼い子の面倒を見たこと	36.4%
⑦海、川、池などでつりをしたこと	36.3%	⑦家族や他人の病気の看病をしたこと	33.3%
⑧雪を食べたこと	30.9%	⑧赤ちゃんをだっこしたこと	29.2%
⑨自分の身長よりも高い木へ登ったこと	27.6%	⑨ハンカチなどにアイロンをかけたこと	26.4%
⑩外で火を燃やしたこと	24.4%	⑩1時間以上歩き続けたこと	8.9%
⑪外でへびを見たこと	17.0%	⑪カナヅチでクギをうちつけたこと	8.8%
⑫海や川で泳いだこと	16.6%	⑫家で料理をしたこと	6.6%
⑬チョウやトンボを捕まえたこと	14.8%		

今の大明小の子どもたちに、このアンケートをとったならもっと違う結果だろうということも予想できます。また、火を燃やすなどは禁止されている面もありますので、難しいこともあります。しかし、経験をすることでプラスになることが多くあることも事実です。

…脱線します。昭和40年代には、ジュースを飲むのに栓抜きが必要でした。瓶のジュースの自動販売機に栓抜きがついていた（左写真）んです。缶ジュースにはプルタブはなく穴をあける道具がついていて（裏面に写真）2か所穴をあけて飲んだんです。缶詰も現在では、缶切りで缶を開けなくても開けられるようになっているものがほとんどです。子どもたちは缶切りを使えないでしょうね…。初めてカラーテレビを見たときに、ジャイアント馬場が赤いパンツをはいていたことに大きな衝撃を受けたことを覚えています。我が家の白黒テレビでは黒く見えていましたから…。



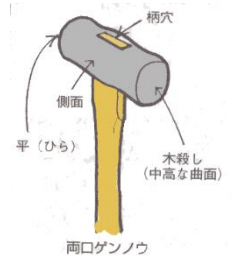
理科や家庭科や図工などの授業をすると、子どもたちが経験しているかどうかの違いが明らかになります。

<理科> マッチで火をつけること、虫や小動物などを飼育すること…

<家庭科> 果物の皮を包丁でむくこと、生卵の黄身を壊さずに卵を割ること…

<図工> ノコギリを使うこと、カナヅチで釘をまっすぐに打つこと、釘を抜くこと…

…また脱線します。両口玄能（図のようなカナヅチ、頭部は両方とも叩くことができる形のもの）には、平らな面と膨らんだ面があることをご存知でしょうか。片側は「木殺し面」と呼ばれ、よく見ると少し膨らんだ形状になっています。最後まで叩ききるときにこの面を使うと釘の周りの木を傷めません。このカナヅチで釘を打ち込むには、始めはまっすぐ打つために、平らな面を使って打っていき、最後に釘の頭が出ないように、木を傷めないように、膨らんだ面で打ち込むのです。豆知識でした。これって常識ですか？



…理科では、アルコールランプもすでに古く、ガスコンロに変わりつつあります。家庭科の皮むきも、便利な道具があり、包丁で皮をむく必要がなくなっているようですが、その便利な道具がうまく使えないという報告もあります。

ほんの一例ですが、これらの経験があることとないことの違いは何でしょう。前号でお知らせした、学習意欲に大きく影響することがあります。計算の得意な子は算数の授業でよく活躍してくれます。水泳の得意な子は、プールでの授業をととても楽しみにしています。同じように、動物や植物が好きで、虫を飼育したり、植物の水やりをしたりしている子は、生活科や理科で意欲をもって学習します。家で調理のお手伝いをしている子は、家庭科の調理実習で大活躍します。ノコギリやカナヅチを使える子は、図工の授業で、作品の仕上がりイメージをもって授業に取り組みます。もちろん、それらの経験のない子にも意欲をもたせ、初めて経験する子もいることを承知の上で、授業をつくっていきます。**体験や経験を通して身についた知識は、確実な知識となり、学習を含む生活の中で使える知識＝「生きてはたらく知識」となっています。**

家庭での体験や経験は、お手伝いから始まることが多くあります。家庭の中で子どもたちの役割がありますか。子どもにどこまで仕事を受けもたせるかは意見が分かれるところかもしれませんが、調理を手伝わせたことにより、食べ物の好き嫌いがなくなったとか、親子で一緒の家事をすることで、親子のコミュニケーションが深まったとか、よい効果があげられています。お手伝いによる効果としては、

- できることが増えていくことで、自信につながる。
- 自信をもつことで、自立につながる。
- 自分に任せられた仕事があることで、責任感が身につく。
- 様々な工夫をすることで、自分で考える力につながる。
- 家族に求められ、褒められることで自己肯定感につながる。



などがあげられます。子どもも忙しいというのが、今の子どもたちの状況かもしれませんが、テレビを見る時間があるのなら、ゲームをする時間があるのであれば、家族の一員としての責任のある仕事を任せることは大切なことだと考えます。子どもに任せるより親がやってしまった方が早いという考え方もあると聞きます。しかし、そのじれったい時間を待つことで、自信・自立・責任感・自分で考える力・自己肯定感…などにつながるとしたら、させないともったいないと思います。

これで缶に穴をあけて飲みました



失敗してもいいと思います。失敗から学ぶものです。失敗して落ち込んでいるようでしたら、手伝おうと思ってくれた気持ちがうれしいと励ましてやってください。忘れてやらないときがあってもいいと思います。自分がやらなかったために家族に迷惑がかかったという経験も必要です。子どもが自分で考え、やり抜く機会を与えることが成長の機会となります。子どもが自分で「どうすればできるか」と考え、やり遂げることで達成感や責任感を体験し、よりたくましくなっていくはずですよ。